

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：

企画名
家具展 2017 ～モノづくり/ヒトづくり～
実施日
平成 29 年 11 月 4 日（土）10：00～17：00 ～ 平成 29 年 11 月 5 日（日）10：00～17：00
実施場所
工学部コミュニケーションギャラリー（ガレリア）
企画代表者の氏名，所属
氏名：松本 雄大 所属：大学院工学研究科建築学専攻
構成員の氏名
魚森陵也 長谷川峻也 成田宏健 松下健祐 吉田隼 堀内遥平 菊田奈美子 梶川大介 兵頭周作 山口素子
指導的立場の教員氏名
角倉 英明 （建築計画学研究室）
企画の目的及び内容
<p>本企画の開催は、家具づくりを通して作成者と来場者がもっと身近にものづくりを体験する場所をつくることを目的としている。また、建築科の学生だけではなく他分野で学ぶ学生、また地元の人々・来場者と交流することができる場所を提供することができると思う。</p> <p>今年度は寄付する目的での家具も制作するため、社会のニーズを調べながら、その希望にこたえるようなものづくりも目指す。</p>
来場者数
平成 29 年 11 月 4 日（土）251 人、平成 29 年 11 月 5 日（日）260 人
主催・後援団体（外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模）
木工野郎 A チーム
活動の内容（準備，広報活動，当日の様子等）
<p>準備期間について</p> <p>例年は、制作した家具は展示後に個人的に利用するもののみを作っていた。今年度はそれに加えて、保育園に寄付するものを制作した。保育園へ電話や手紙で連絡をとり、必要とされているものを調べ、それを制作した。</p> <p>また、制作物の完成度を高めるために 8 月 7 日に永本建設の大工 2 名に来ていただき、継手仕口や木材の加工について習った。また、広島大学大学院教育学研究科技術・情報教育学講座（木材加工）木村 彰孝准教授に協力を得て、数回にわたり簡単な家具の制作を通して基礎的な木工の道具や技術について習い、技術の向上を図った。</p> <p>制作期間について</p> <p>9 月から制作を開始し、期間に余裕をもたせ試行錯誤をしながら制作を行った。授業が開始した 10 月からは授業時間外の時間に主におもしろラボで制作を行った。おもしろラボでの制作後は清掃を行い木粉やクモの巣をふき取るなど使用前の状態以上に綺麗な状態にした。今年度は継手仕口を用い制作するようにし昨年よりも完成度、作業内容共に向上した。</p> <p>当日の様子について</p> <p>家具を展示し、見たり座ってもらったりし意見をいただいた。また、寄付するために制作したおもちゃとボードゲームは年代を問わず人気を博し、各来場者の滞在時間が長くなっていることも特徴的だった。</p>

（裏面に続く）

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書 (裏面)

アンケートの結果 (来場者にアンケートを実施した場合のみ)

アンケートは行っておりません。

成果・課題

成果

制作にあたり、学生だけではなく工務店の大工、建築以外の方々に指導をいただきながら政策が行えたので、昨年とは違い社会との関わりを持ちながらのものづくりの楽しさ、難しさを学ぶことができた。

ボードゲームとおもちゃの設置により幅広い年代の方々が長時間来場され、昨年よりも60名近く来場があった。ボードゲームの作り方を聞かれ、家で作りたいという意見があったり、欲しいといわれることもあり、木を使ったモノづくりに興味を持ってもらえた。

また、今後制作したおもちゃや家具を保育園に寄付するので、社会貢献になる制作ができていることになると考える。

課題

作品数を充実させること、作品へのフィードバックをしてもらう制度を整えること

実施風景 (写真)



指導してもらう様子



指導してもら
う様子



展示全体の様子



年代を問わない来客者



家族で対戦



家具に興味を持っ
てくれました



兄弟で遊ぶ



知育に良いと注目



大学生と勝負

【提出方法】 指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください。

E-mail でも受け付けます。

【提出先】 工学部学生支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)